

日本のリンゴ輸入は、日本産の生産量が96万31971年に自由化されて45年を経過したが、これまでで、日本向けにリンゴを輸出した国は、アメリカ、ニュージーランド(NZ)、オーストラ

日本産の生産量が96万3千トであったから、最も多く輸入された年でも輸入量は日本産のわずか1%にすぎない。

5万トン時代へ 青森リンゴ輸出

33

リア、韓国、北朝鮮、ネパール、フランスの7カ国である。

過去最大の輸入量は、95年のアメリカからの8935トで、同年、韓国とNZからも輸入があり、合計で9295トの

量的には少ないが、輸入年が16回に及ぶ韓国

7カ国から輸入実績

NZ、新品種で攻勢か

は、2015年6月に日本未発生の病害である火傷病の発生を理由にリンゴの輸入が禁止された。



商標名 エンヴィ Envy™
品種名 サイレート Scilate

ニュージーランド産のエンヴィ (杉山芬・雍著「青森県のりんご」から)

輸入再開は不透明だが、通常は病害を完全防除した上で解禁要請があれば一定の手順を踏んで審査が行われる。審査は相当の年数がかかることから韓国産の輸入再開は当分かなわないだろう。

この他、リンゴの解禁要請をしている国は、イタリア、アルゼンチン、フランス(品種追加)の3カ国だが、審査の動きはない。

最大の生産国である中国は日本にいない害虫「コドリンガ」の生息地のため、輸入が禁止されている。

現在、「Envy(エンヴィ)」というNZが開発した会員限定品種を武器に日本市場拡大を目指しているという。NZから目が離せない。

局長 深澤守